

「剣を振るい、
鋼鉄の足踵を鳴らし、
光もかくやという速さで
敵を屠り殺す。」

ア
ア
ア
ア



そんな風にかつて
自分が言われていたのを
思い出した

…魔術で姫の影武者に
したてあげられるまでは、だが







礼儀の稽古がイヤか？

そんなに舞踊の稽古がイヤか？



…何度も何度も逃げ出して



ボクは騎士です



なんだこの
小鳥のさえずりのような声は



…なんだこの弱々しい声は

踊りや作法なんて、
ボクの仕事ではありません



ふっ



剣を振るうのが
自分の仕事です





そうだ：相性とその技量から
姫の影武者に選ばれたものの、
その魔法による変身は不完全だった

口だけは立派だな

姿、顔立ちは良い
ただその身長や年齢が、
彼女より数段幼いものに――

言うなら妹のような姿だ

この少女のカラダは、
あろうことか姫にすら抗えない

ふあうっ♡

んはうらうっ……♡

それどころか、
目の前の女性好きの姫と同じに
作り変えられてしまった
少女のカラダは――

あろうことか
それを大喜びで
迎え入れてしまうのだった



白い胸の谷間から弾ける
甘い果実を思わせる
少女の汗の香り

それが今の自分の
身体の匂いだと信じたくなかった



ふふ、愛いな

私にナルシズムの気は
なかったつもりだが…



もし目覚めたのなら
キサマの責任だ、騎士様







くそっ...!!
嫌だ...

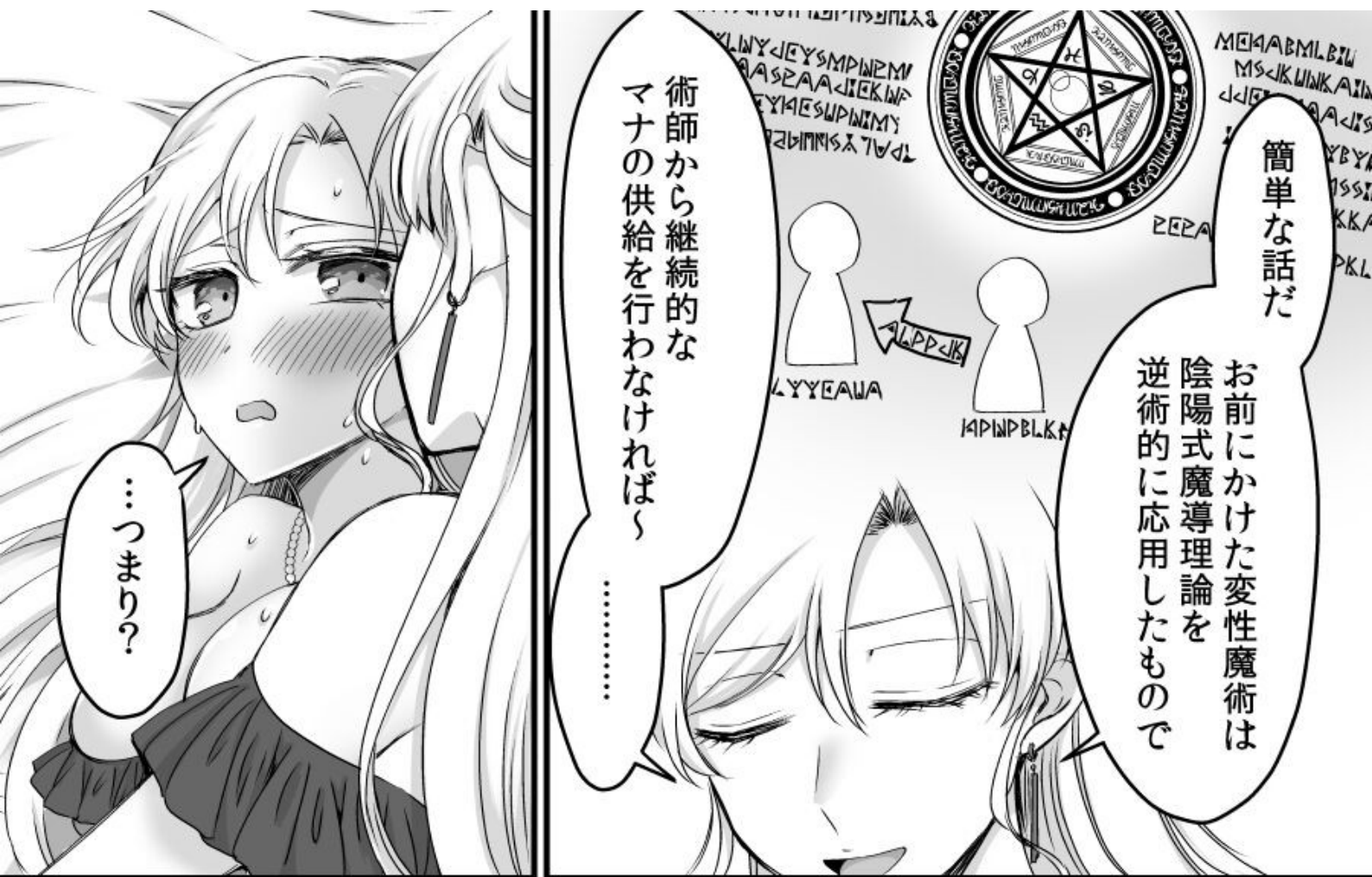
こんな、
こんなのおっ...♡



仕方ない
そんなに嫌なら
元の姿に戻る方法を
教えてやってもいいぞ

...あっ

ふあぁっ...♡





男の中の男
女一人鳴かせるくらい
訳もないだろう？

ぽんぽん♡

……っ!?



…んあっ♡

どうだ？
簡単だろう？



スルッ…

なんせ国の
大英雄の騎士様だ



ああ、遠慮なく
さわるといい…♪

お姫様♡

ぽんぽん♡

たっ♡



……いいんですね



無論、姫の言う通り、
女を抱いた経験はそれなりにあるし、
自信もある

相手が
いくら同性好きの
姫様であろうと

自分が彼女と同じ姿に
変えられてしまっ
いたとしても――



数分後

あっ♡
あうううん…

ふあああ♡
あふああ♡

ふふいんっ♡♡♡
んやああっ♡

フ
ル
ッ
♡

その結果ウブな処女以下の知識と
誘惑に耐性が一切ない

んはあああっ♡

あううう
...♡

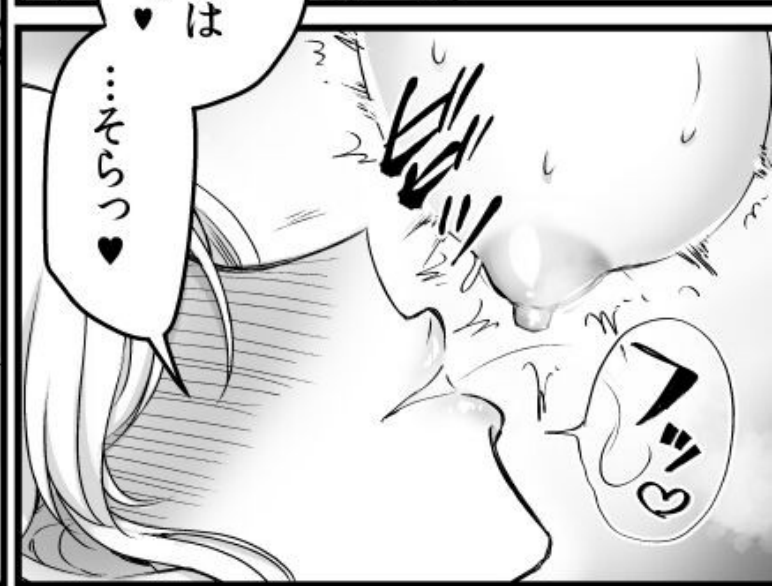
く、くそっ…
イかせればいいんだ

イかせればいいんだ

今まで、
だっ…だっ…

哀れな少女へと
変貌してしまっていたのだ

だいて、きた
女の人、みたいにな……





だっ、だめ♥
これ以上時間をかけると♥

わ、わたし…
ちがつ、
ぼくがおかしくなるうつ♥♥



そんなに
揉み心地がいいか？
私の乳房は

くっ…
ふああああああ♥

ふふ

はっ

たっ

たっ



ニヤ
ニヤ
まったく
これではどちらが
犯しているのかわからないな

ふーっ...
ふーっ...
ふーっ...

すっ、すっ...
ひめ様のおっぱい、
すぐくやわらかい...
すっ、すっ...
すっ、すっ...

すっ、すっ...
すっ、すっ...
すっ、すっ...

指に吸い付いてくるみたいに
きめ細やかで...
ち、ちがう、
どうしてこんなことを考えて...



ニヤリ...
まったく仕方ないな
私が直々に
教えてやらねば
ならないか

その身体にな♡

ふえっ...
ふにゃああああああっ!!

ふにゃああああああああっ!!







ああっ...アああああアア...♡















ききもち♡♡
しゅいこでひゅう♡♡

自らをにこんな屈辱を与えた相手に、
媚びへつらった笑みを浮かべながら
服従している



どうだ？
そのオンナのコのカラダは
キモチいいだろう？
騎士様♡

んいせつ♡♡
ひゃひゃここっ♡



それなのに…

それがどうしようも
なく幸せで…♡

…イけ♡

んおっ♡♡
んが♡♡♡♡
んが♡♡♡♡



ビクッ

ん♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡
ハッ♡♡♡♡♡

幸せでたまらない...

♡♡♡♡♡
イクッ♡♡♡♡♡

ハッ♡♡♡♡♡
ハッ♡♡♡♡♡

